



東アジア共同体評議会会報

The Council on East Asian Community Bulletin

Summer 2009 Vol.6 No. 3

「東アジア共同体」構想をめぐる最近の動き

「日中韓首脳会議」開催

昨年12月13日に福岡で「日中韓3国首脳会議」が開催された。従来の開催は、ASEAN+3首脳会議の際の随伴開催であったので、「第1回日中韓サミット」と銘打って単独開催された今次会議の意義は大きい。「三国間パートナーシップに関する共同声明」、「日中韓行動計画」なども発表され、今後の三国間協力が道がつけられた。

3月18日に開催された当評議会の



報告する小原雅博外務省参事官 (中央)

第31回政策本会議で、外務省の小原雅博アジア大洋州局参事官は、「ASEANを東アジア地域協力の運転席に置く方針に変わりはないが、東アジアの将来について、①重層的アプローチ、②機能主義的アプローチ、③普遍的価値やグローバル・ルールの重視が議論された意義は大きい。今後日中韓3国は未来志向でwin-winの関係を作っていくべきである」と述べた。

環境・エネルギー分野

東アジアにおいて貿易、投資等の機能的な地域統合プロセスが着実に進行していることは、言うまでもないが、「環境・エネルギー分野における地域協力の進展と今後の課題」はどのようなものだろうか。この点について当評議会は4月27日に政策本会議を開催し、廣野良吉成蹊大学名誉教授より報

告を受けた。

当評議会は「東アジア共同体構想をめぐる動きの現状をどう評価するか」との総合テーマの下で、昨年3月より全11回の政策本会議を実施しているが、この政策本会議はその第7回となった。廣野教授は「東アジアにおける環境協力の視点として、国際的枠組みのアジア版の推進という視点が重要であり、日本は、地域全体のエネルギー効率向上のため技術協力を強化、推進していく必要がある」と述べた。



報告する廣野良吉副議長 (中央)

NEAT「環境協力」WG

8月末にもソウルで開催を予定される東アジア・シンクタンク・ネットワーク (NEAT) の本年度総会に向けて、現在「投資」「金融」「文化交流」「食料安全保障」「環境協力」の5つの作業部会が提言作成作業を行っているが、その一環として、さる4月20日シンガポールで「東アジア環境協力」作業部会の国際会議が開催された。

この作業部会は、日本とシンガポールが共催し、当日の会議には日本を代表して、廣野良吉当評議会副議長 (成蹊大学名誉教授) と井村秀文同有識者議員 (名古屋大学大学院教授) が出席し、廣野副議長は作業部会主査を、井村議員は同メンバーを務めた。

作業部会は「地球温暖化対策」と「環境に優しいエコシティ構築」の2つの提言をとりまとめた。

NEAT「文化交流」WG

東アジア・シンクタンク・ネットワーク (NEAT) の年次総会に向けた、その「文化交流」作業部会の国際会議が、5月2日ソウルで開催され、日本からは当評議会を代表して河東哲夫有識者議員 (元ウズベキスタン大使) が出席した。

河東議員は「無理に『東アジア』のアイデンティティーを探すよりも、中世アジアのオープンで自由だった交流や協働を復活させればいい。ポップ・カルチャーなども、自然に生起するものであり、政府は側面的な環境整備に関与をとどめるべきで、その内容に干渉してはならない」と発言したが、他国の出席者からは「北東アジアと東南アジアの南北文化格差は大きい。先端を行く『北』に対し、『南』には学校、ホールなどのインフラ設備すらない」と訴える声もあがった。

— 謝 辞 —

東アジア共同体評議会の諸活動の主要な財政的基盤は、その経済人議員の納入する賛助会費にあります。現時点における当評議会経済人議員は、下記名簿記載の11社13口です。ここに特記して謝意を表します。

[3口]

特定非営利活動法人世界開発協力機構

[1口]

- オリックス株式会社
- 株式会社三友システムアプレイザル
- 株式会社電通
- 山九株式会社
- 新日本製鐵株式会社
- 住友商事株式会社
- セイコーエプソン株式会社
- 東京電力株式会社
- トヨタ自動車株式会社
- 三菱商事株式会社

[入会順]

百家争鳴から

当評議会のホームページ (<http://www.ceac.jp>) 上の政策掲示板「百家争鳴」への最近3ヶ月間の投稿論文を代表して、下記論文を紹介する。

第1回「日中韓首脳会議」の歴史的意義

東アジア共同体評議会常任副議長 村上 正泰

昨年12月13日に福岡で第1回「日中韓首脳会議」が開催されました。この会議は非常に重要な歴史的会議であったにも拘わらず、日本のマスコミなどではその意味や成果などが十分に報道されませんでした。たしかに、これまでも日中韓3カ国による首脳会議は開催されてきましたが、それらの首脳会議は、いずれもASEAN+3などのASEAN関連の会議の場を借りて、いわば「ひっそり」と開催されてきたものです。それに対し、今回は初めてASEAN関連の会議とは切り離して、3カ国独自のイニシアティブで開催されたものです。「第1回」と銘打っているところにも、その心意気が表れています。東アジア共同体評議会では、さっそく3月18日の政策本会議に

小原雅博外務省アジア大洋州局参事官を講師としてお迎えし、「日中韓首脳会議と東アジア共同体構想」と題して詳細なブリーフィングを受けました。

ASEAN統合に比べ、遜色のあった日中韓の北東アジア統合が、これを機に大きく前進することが期待されます。小原参事官からも「日中韓の3カ国は二国間ではそれぞれに難しい問題を抱えているが、3カ国の首脳が集まることによって、『共通の課題に一緒になって取り組んでいこう』というメッセージを打ち出し、さらにそのメッセージを裏付ける具体的な『行動計画』まで出すことができたのは、非常に重要だ」との総括がありました。

(2009年3月28日付投稿)

最近3ヶ月間で注目されたその他の論文

- | | |
|--------------------------------------|-------------------------------------|
| 5/26 「もはや避けて通れぬ『先制攻撃・核』論議」(杉浦正章) | 4/13 「『金正日・張成沢体制』が見えてきた」(大江志伸) |
| 5/20 「アジア基軸通貨をめぐる日中の争い」(田村秀男) | 4/8 「東アジア首脳会議 (EAS) に向けた日本の立場」(関山健) |
| 4/22 「タイ政治と東アジアの地域統合」(矢野卓也) | 3/19 「ロシア経済の最近の動向をさぐる」(河東哲夫) |
| 4/19 「北朝鮮の行動の基礎にあるポイント」(入山映) | 3/6 「東アジア共同体構想：注目される最近の動き」(石垣泰司) |
| 4/14 「悔やまれる東アジア首脳会議 (EAS) の中止」(中野哲弥) | 3/2 「強い懸念呼ぶ麻生首相の対露アプローチ」(袴田茂樹) |

NEAT「国別代表者会議」

3月30～31日にソウルにおいて東アジア・シンクタンク・ネットワーク (NEAT) の「国別代表者会議」(CCM) が開催され、「NEAT設立運営規則」の改正や「NEAT公式ウェブサイト」の運営方法などが審議された。

日本からは当評議会を代表して村上正泰常任副議長が出席した。

カンボジア大学主催の「アジア経済フォーラム」に参加

さる4月5～7日、プノンペンで、第5回「アジア経済フォーラム」が開催され、日本からは当評議会の若林秀樹有識者議員ほかが出席した。

この「フォーラム」は、カンボジア大学が主催し、同国政府が全面支援する国際会議で、当評議会は伊藤憲一議長とカオ・キム・ホーン同大学学長兼

CEAC活動日誌 (3月-5月)

- ◇3月10日、5月10日、CEAC E-Letter発行
- ◇3月18日 第31回政策本会議 (小原雅博外務省アジア大洋州局参事官他16名)
- ◇3月30-31日 NEAT第10回CCM (ソウル) (村上正泰常任副議長)
- ◇4月5-7日 「アジア経済フォーラム」(プノンペン) (若林秀樹有識者議員)
- ◇4月10日 『メルマガ東アジア共同体評議会』(3-4月号)発行
- ◇4月17日 第15回企画委員会
- ◇4月17日 第2回運営準備会議
- ◇4月20日 NEAT環境協力WG (シンガポール) (廣野良吉副議長、井村秀文有識者議員)
- ◇4月27日 第9回運営本会議
- ◇4月27日 第32回政策本会議(廣野良吉副議長他20名)
- ◇5月2日 NEAT文化交流WG (ソウル) (河東哲夫有識者議員)
- ◇5月29日 NEAT金融協力WG (北京) (村上正泰常任副議長)

- 新規就任議員の紹介 (3月-5月、入会順)
- 新規就任議員の紹介 (3-5月) 【有識者議員】
名越健郎 (時事通信社編集局次長)
- 新規就任議員の紹介 (3-5月) 【経済人議員】
半田晴久 (世界開発協力機構総裁)
- 新規就任役員紹介 (3-5月) 【副議長】
平林博 (日本国際フォーラム参与)
- 新規就任顧問の紹介 (3-5月)
半田晴久 (世界開発協力機構総裁)
- 新規就任企画委員の紹介 (3-5月)
平林博 (日本国際フォーラム参与)

カンボジア外務副大臣との親しい関係から、第1回より毎年参加している。



基調演説するフン・セン首相 (中央)



東アジア共同体評議会会報
2009年夏季号
(第6巻 第3号 通巻第20号)

発行日 2009年7月1日
発行人 伊藤 憲一
編集人 菊池 誉名

発行所 東アジア共同体評議会
〒107-0052 東京都港区赤坂2-17-12-1301
[Tel] 03-3584-2193 [E-mail] ceac@ceac.jp(代表)
[Fax] 03-3505-4406 [URL] <http://www.ceac.jp/>